——非常に強力だと思います．特に50年代から60年代に，大挙して優秀な日本人が米国に移りました．もし彼らがいなかったら，米国の研究グループは，相当低下したことであろうと思います．気象庁も気象研究所も良くやっていると思います．唯，一つの欠点は，communication です．もっと交流を促進しなければなりません．この意味でも，研究者を交換したりして交流を促進するのは非常に重要です．

問：若い人達に云いたい事は？

——数値モデリングは非常に重要ですし，又，非常に exciting なものだと思います．我々の対象としている事象は，古典系とは云え，高度の非線形系で，それを理解することは，科学という点からも非常に興味のあるものです．ともあれ，優秀な若者の数は限られていますから，出来る限り数多くの優秀な若者が我々の分野に参加してくれることを期待しています．

問：我が国でも，将来的には，アジア地区に気候研究センターのようなものを設立したいと思っていますので，このような組織を維持するために留意する点を教えて下さい．

——まず，現実的で，挑戦しがいのある目的をもつことです．現実的な利益と，科学的な好奇心とが共存していなければなりません．それと，技術的なサポートと，科学者のバランスが大事です．最後に，大幅な自由度の確保です．当センターでは，経済的なことでも政治的なことでも，相当多くの事が，私自身によって決めることが出来ます．いちいち，外部にお伺いを立てていたら，組織の activity は失くなってしまいます．それと，一定サイズ以上の組織を維持することです．組織が一定以上大きくなると，内部力学が働いて，ますますうまい方向に物事が動いてゆくことになります．

非常に行政が肌に合っているように思えた Bengtsson にして，「科学に最も興味がある．今でも週末には論文を書いている」というのには，びっくりした．日本も週休2日制を早く確立して，週末位，論文を書く日にしたいものです．ともあれ，内心はどうかは分かりませんが，闘志満々の ECMWF の棟梁，L. Bengtsson ではありました．

（住　明正）

月例会「レーダー気象」のお知らせ

標記の例会を次の通り開催しますのでご参加下さい．

日　時：1988年12月20日（火）13:30～17:00

場　所：気象庁5階　第1会議室

プログラム

1. 「ドップラーレーダーと擾乱度エコーの比較」
   新東京航空地方気象台　大塚　仁大
2. 「国立防災センターのドップラーレーダーの概要と試験運用」
   国立防災科学技術センター
   八木　鶴平，真木　雅之，中井　専人
3. ウィンドプロファイラー
   気象研究所　上田　真也
4. 降水強度指数（衛星による降水強度の見積）
   気象衛星センター　鈴木　和史
5. レーダーデータ解析プログラム（RANAL）の紹介とその解析事例について
   東京管区気象台
   岩倉　晋，渡部　俊夫

連絡先：気象研究所　台風研究部　田畑　明
榊原　均
TEL. 0298-51-7111